

ある先輩から聞いた、「掃除の基本は捨てること」という言葉があります。時々、わたしは自分の部屋を見ながら、そういう思いがわき起こります。先日わたしはある韓国人の神父様の小教区に行き、司祭館でいろいろ話した時、その神父様の部屋を見てとても驚きました。その神父様の部屋は、わたしの部屋とは比べものにならないほど整然として、とてもきれいだったからです。物も少ないし、家具も少なかったのですが、何より驚いたのは、わたしの部屋と違って、色々な物や書類があちこちに散在していないし、そういう物自体が全く見えないということでした。お恥ずかしい限りですが、わたしは時々、自分がとても情けなく感じてしまいます。そして、なぜ自分の部屋はこんなに雑然となってしまうのかを考えながら、ふと、先輩から聞いた「掃除の基本は捨てること」という言葉が頭をよぎりました。そして、「なぜ、わたしは捨てるのが苦手なのか」について考えましたが、今日はその考えを信者の皆さんと分かち合いたいと思います。

今日の福音で、イエス様はある人から「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」という質問を受けられました。イエス様は律法の掟を言われながら、彼に「あなたはそれを知っているはずだ。」と答えられました。それを聞いた彼は、自分は子供の時からそれを守ってきたと言い、その他に何が必要なのかを、もう一度イエス様に聞きました。そこでイエス様は彼を見つめ、慈しみながら「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」と言われました。その言葉を聞いた彼は気を落として、悲しみながら立ち去りましたが、福音は、彼の悲しみの理由を「彼がたくさんの財産を持っていたからだ。」と語っています。その後、イエス様は弟子たちに、「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」とおっしゃいました。それを聞いた弟子たちは驚いて、「それでは、誰が救われるのだろうか。」と互いに言いましたが、

イエス様は「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」と言われました。そして、イエス様のため、また、福音のために自分の家族や持ち物を捨てる人は、それらを百倍で受け、また、後の世では永遠の命をも受けると教えられました。

**今日の福音を黙想しながら、**わたしはあの金持ちの悲しみについて考えてみました。きっと彼は、イエス様が自分に無理なことを要求されたと思ったでしょう。しかし、考えてみたら、今日イエス様がおっしゃったのは、たくさんの財産が人を救うのではなく、神様が救ってくださるのだということがわかります。つまり、人間は自分が持っているものによらず、神様によって救われるということで、神様を信じなければ、また、イエス様に従わなければ、人間は決して救われない、ということです。そういう意味で、イエス様は「人間にはできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」とおっしゃったわけです。言い換えれば、神様は人間が救われるために必要なことをその人に悟らせ、その人を神様に従わせることができるということでしょう。それはまるで、らくだを針の穴に通らせることと同じことです。人間にはそれができないけれども、神様はそれができる方なので、自分の持ち物ではなく、神様に自分を任せることによって、自分を救うことができるのです。

**今日の第1朗読の知恵の書は、**神様からの知恵に比べられるものは、この世に何一つないとはっきり語っています。知恵の書の著者は、自分が神様に悟りを祈り求め、また、知恵を願ったのは、知恵がなければ富や宝石、金銀や健康、容姿の美しさ、光さえ意味がないからだと言いました。その知恵とは正しい生き方で、人生の道を正しく導いてくれる神様の賜物なのです。知恵は人間が神様に従うように導き、それを悟らせてくれますが、それに従わないと、人間はいかに素晴らしい財産や知識、名誉や健康を持っていても、正しく生きることができなくなるのです。しかも、そうい

ったものを頼みとし、神様を拒んだら、人間は自分の思いや考え、また、自分の様々な持ち物にこ  
 だわり、その暗闇の中でさ迷うはずです。さらに、今日の第2朗読は、神様の言葉の力について語  
 っています。神様の言葉の鋭さ、また、強さは、人間のかたくなな心や不信仰、愚かさを露にす  
 るほど力ある者なので、その神様の前で、人間は自分を隠すことができませんが、逆に言うと、そ  
 の言葉に従ったら、人間は神様の子供として生きることができるのです。その神様の知恵、また、  
 言葉とは何でしょうか。それはまさしくイエス・キリストでしょう。イエス様は神様の知恵、神様の  
 み言葉でありながら、ご自分のことを考えず、人間の救いのために来られました。そして、神さま  
 の慈しみと愛による救いの御業を成し遂げられ、わたしたちに救いの道、すなわち、愛の道を示し  
 てくださいました。ですから、わたしたちも自分に拘らず、また、自分の様々な利己心や欲心を捨  
 て、イエス様に従うべきです。

さて、「なぜ私は捨てるのが苦手なのか」についてですが、捨てようとしても、「これはまだ。  
 これは要る。これはちょっと。」などと物への執着心を持ったり、「これがなければ困るかも。」  
 という杞憂もあったりして、うまく捨てることも、きれいに掃除することもできないのだと思います。  
 その思いと共に、イエス様に従う前、先ず、自分が何に拘っているのか、何に心を奪われている  
 のかを真剣に考えることが必要ではないかという気がしました。これからは神様に全てを任せ、わ  
 たしたち皆がイエス様に従って、神様の子供としての道を歩むことができるよう、お祈りいたし  
 ます。